

令和4年度 第3回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和5年3月17日（金） 午後7時～午後8時54分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山添 智子 富山 由美子 地村 千里
松本 佐知子 山崎 喜代美 中村 ひろ子 山中 ルミ
【事務局】 田村次長 三日月課長 岡崎参事 香取館長
篠原館長 片岡館長 今村館長 井口館長
【傍聴者】 なし

4. 次 第：（1）会長あいさつ
（2）令和4年度統計中間報告について
（3）令和5年度実施事業計画について
（4）甲賀市図書館の利用に関するアンケート調査結果報告について
（5）副会長あいさつ

5. 内 容

（1）会長あいさつ

読書の自由について改めて考えたことを少しお話ししたいと思います。

アメリカで禁書運動という市民運動が加熱しています。

禁書とは、特定の本を公立図書館や学校から排除して閲覧できなくすることで、これは前大統領出現以降の社会の分断が影響しているようです。

どんな本がその対象になっているかというと、知っているところでは、『ハックルベリーフィンの冒険』、『大草原の小さな家』など。最近の本では『ハリー・ポッター』まで禁書にしようとする動きがあり、いわゆる人種差別やLGBT、ジェンダーなどに関する本がその対象となっているわけであります。

日本の場合、分断はそこまで表面化していないので禁書は考えられないと思うが、広島市では、教育委員会が『はだしのゲン』を教科書から削除するという報道がありました。その理由は、池の鯉を盗んで食べる場面が不適切だからという委員の意見があったからで、それで教科書から外すことになったらしい。

その真の意図はどこにあるのか、これは検閲ではないかと私は考えます。

図書館には「図書館の自由に関する宣言」があります。

図書館にはいろんな本があつて、我々は自由に本を選び閲覧できる、それは本当にありがたいことであると、改めて感じた次第であります。

本日もよろしくお願いします。

（2）令和4年度統計中間報告について【資料1】

〔令和4年度統計中間報告について事務局から説明〕

【質疑・意見】

会 長：中間報告の図書費ですが、昨年度と比較して少なめに出ていますが、あと3か月で執行できるのですか。

事務局：計画的に順調に、今購入しているところです。出版社から直接本を持ってきてもらって選書をする見計いがあり、今年度は時期が遅かったのですが、高額な本も中身を確認してから購入しています。また昨年、甲賀の移動図書館の児童書を一新したところ、子どもたちが非常に喜んで、利用が増えたということがありましたので、水口でも移動図書館の本を買い替えています。

会 長：利用者としては、やはり一年を通じて新しい本が入っているという雰囲気が欲しいですね。分散して計画的に入れてほしいと思います。

事務局：バランスのことはありますが、昨年度は350万円の個人様からの寄付があり、児童書を前半に重点的に購入したという特殊な事情があります。

会 長：図書館として、必要な予算は確保してほしいですね。

委 員：甲賀の児童クラブですが、図書館に歩いていくのが難しいため、移動図書館に来てもらうと、子どもたちが手伝って並べて、本を大事にするという学びもあるので、ありがたいと思っています。昔は古い本が多かったのですが、最近は新しい本が載っているので、子どもたちも喜んでいます。

会 長：数字に出ないところですが、大事なところですね。移動図書館の利用は回復してきていますか？

事務局：全体的な数字は減っていると思いますので、新しい魅力のある本を入れてテコ入れしたいと思っています。児童クラブにも毎月配達していますが、やはり新しい本を入れるとシリーズにも予約が入りますので、魅力のある本を入れるよう努力していきたいと思っています。

委 員：職員は適正な人数ですか。学校司書は若い人が入っているようですが。

委 員：児童クラブの話に戻りますが、甲南は要望がないのですか？

事務局：甲南図書交流館の隣にある児童クラブは直接来館され、クラスごとに100冊単位で借りて行ってもらっています。それ以外のところは、今のところ移動図書館での配達はありませんが、夏休みなどに出前講座でおはなし会に行き、そこで本を持って行って選んでもらう機会もあります。

（3）令和5年度実施事業計画について【資料2】

〔令和5年度事業計画に基づき事務局から説明〕

【質疑・意見】

委 員：信楽のボランティアで毎月おはなし会をしていますが、参加が少ないので、もう少しPRや呼び込みをしたり、子ども連れが利用しやすい時間帯に変更するなどしていただきたいと思います。

事務局：チラシを作成し館内・館外で配布したり、別施設での行事の際に案内するなどしていますが、各種行事が再開されていく中で、より多く参加していただけるようやり方を検討していきます。

会 長：甲南で日曜日に入門ビブリオバトルをしています、通路から見えるところで開催をしています。多くの方が横を通られますが、会場に入って来られないので、もう一步入ってもらうことが我々のグループの課題となっています。

委 員：保育園や小学生がいる家庭は、土曜日の午後がいいと思います。小さな子どもがいるお母さんは、午前が出てきやすいのでは。当日に図書館の館内放送で案内されますが、まず図書館に来ていただかないと。

会 長：定期的に行っていると認知されやすいと思います。図書館も工夫してくれていると思いますが、難しいところです。

委 員：検診などに出向いて、ミニおはなし会を実施してみるのもよいかと思います。

会 長：図書館によって来館者の動向は違うので、それぞれに合った時間帯に変更するのもよいかもしれないですね。

委 員：甲賀のボランティアですが、同じ悩みです。外にいる方に呼びかけても人が集まらない場合も多く、時間帯変更も考えています。

委 員：水口のボランティアですが、次回のチラシを渡すなどして工夫をしています、参加は毎回違う方が多く、リピーターになってもらうことが難しいです。

事務局：水口では、来年度は時間帯の変更を考えています。各館でもボランティアの方などと相談しながらすすめて参ります。

事務局：先ほどご質問いただいた職員数について、人数は変わっていません。会計年度職員は今年度と同人数を採用しています。正規職員の発表はまだですが、引き続きサービス低下がないような体制としたいと考えています。

委 員：図書館はすごく仕事があるので、この人数でよいのかという思いで質問しました。

会 長：「思い出の本さがします」とはどういう企画なのですか。

事務局：「昔読んだけど題名が思い出せない本」の情報を利用者から募り、図書館で公開して、皆で探してみましよう、という企画です。以前開催していた紅葉マップの作成などと同様、市民参加型の事業として検討しています。

会 長：新しい企画が出ることは、違う展開ができて期待が持てますね。

委 員：甲南の新しい郷土資料室については、どのような資料が揃えられるのですか。古文書などでしょうか。

事務局：古文書については、収蔵庫などで保管しているため、郷土資料室に所蔵することではなく、別に閲覧申請をしていただくことになります。今、甲賀市では忍者による観光やまちづくりを推し進めていることもあり、忍者の資料を集めた図書館の要望も出ています。まずは忍者資料を中心にとは考えておりますが、忍者や甲南に関連する資料だけを置くわけではなく、和室を活用した場所づくり含めた郷土資料室とするための検討をしながら作業していきます。ご意見いただければ参考にしていきたいと考えています。

委 員：外部からの意見も聞いて選定していくのはどうでしょうか。いろんな分野からの声を聞いたほうが活性化します。敷居を高くせず、マンガなども置いてもよいと思います。マンガから歴史を知って、本を読むようになったという子ども

もいましたし、いろんな資料を置いてほしいと思います。

委員：プララでの企画は毎回すごい人なので、新しい取り組みの力を感じています。

会長：甲賀市全体でみると、特徴は忍者だけではないので、忍者もいいですが、忍者にプラスした甲賀市の郷土資料室になるよう考えていただきたい。

委員：外国語資料の充実について、利用の様子はどのようでしょうか。

事務局：利用が多いわけではありませんが、図書館に必要な資料ですので、英語ほか、ポルトガル語、スペイン語、中国語など、少しずつではありますが蔵書を増やしております。

委員：病院に行った際も、通訳の方がおられて、外国の方も多かったため、外国語資料の必要性を感じている。

事務局：市内在住の外国の方が図書館を日常的に利用していただくまでには、いろいろな課題があります。

事務局：小学校の図書主任さんからの相談で、水口所蔵のポルトガル語とスペイン語の本に加え、滋賀県立図書館の本を提供させてもらったところ、子どもたちがすごく喜びました、というお声をいただきました。単価が非常に高いのですが、必要な資料ですので、需要も見定めながら所蔵を増やしていこうと考えています。またそれらの資料は、移動図書館でも利用いただけるようにしています。

（４）令和４年度甲賀市図書館の利用に関するアンケート調査結果報告について

〔甲賀市図書館の利用に関するアンケート調査結果報告について事務局から説明〕

【質疑・意見】

会長：コロナになって、図書館を再認識される方がおられた。

事務局：ゴールデンウィーク前に１か月臨時休館をしましたが、予約の本だけは対応しました。固定利用の方が多く、窓口でお渡しをしていましたが、コロナ禍になっても図書館を利用される方が多かったことが非常にありがたかった。

先ほども説明がありましたが、コロナ禍になってから来館者は減りましたが、貸出冊数はそれほど減りませんでした。利用される方は減らないので、図書館に目を向けられていない方に対して、図書館に来ていただけるきっかけづくりを進めていけるように取り組んでいかないといけない。

事務局：今まで図書館を利用したことがなかったが、アンケートを回答したことにより、興味を持って図書館に来てカードを作られた方がおられ、図書館を利用するきっかけとなり、ありがたく思っています。

委員：人気がある本を借りたいと思いましたら、非常に予約が多かった。そのあたりが何とかならないのか？

事務局：全館で発注調整を行い、予約の件数を見ながら発注しています。アンケートでは、幅広い蔵書と回答がありましたので、バランスを見ながら発注しています。

事務局：アンケートに、もっと最新のものを取り入れてほしいとか、新刊書や本屋ランキングを参考にして人気本を入れてほしいとの意見が目立ちます。

会長：人気本だけでなく、売れない本は廃刊となり後で入手できないことがあるため、

重要な本、後で必要と思われる本は、図書館においてもらうことが大切。ベストセラーを多く購入するのではなく、バランスよく購入してほしい。

委員：図書館に行かない方がアンケートに回答されているので、図書館がこうなっていってほしいという思いを感じます。本に興味があるが図書館を利用されていない方をどのようにしたらよいのかと思います。

事務局：行く必要がないと回答された方はでも、本に接したことがないだけかもしれないと考えるべきかなあと思います。

委員：行く必要を持ってもらえたら良い。みんなが集まってくれる場所になってくれれば変わると思います。

事務局：何かのきっかけづくりで、一步でも図書館に入ってもらえるように進めていかないと考えています。

会長：図書館が必要ないと思う人もおられますが、今は必要がなくても、いろいろな人生のステージで必要になることがあるので、その時に図書館がないといけないので、その点では図書館は大切なところだと思う。また、利用されていない方の意見もありますので、非常に貴重な意見と思います。

事務局：子どもが小さい時に図書館を利用して気づくことがたくさんありました。行かなくても図書館のイメージをもっておられる方はたくさんおられると思いますが、実際行ってみると「こんな本まであるのか。」という印象が強かったことを覚えています。先ほどの話がありましたが、何かのきっかけで来てもらえることが、最初の入り口として大切なことだと思います。

委員：前にいたアメリカの図書館では、人気がある図書については1週間しか借りられないようにしたり、1週間しか借りられない本と普通の期間借りられる副本を置いていることもありました。また、よく借りられる本は有料にして、早く借りられるようにしていました。また、夏のバケーションの時期は、貸出期間を3週間でなく、2か月間にしていました。

(5) 副会長あいさつ

会長：それでは、協議会はこれで終了とします。

副会長：どうもありがとうございました。

以前は図書館を利用していましたが、コロナ禍になってなかなか行かないようになり、本を読まない生活習慣になっています。みなさまの意見を聞いていると、また図書館に行きたいと思いました。